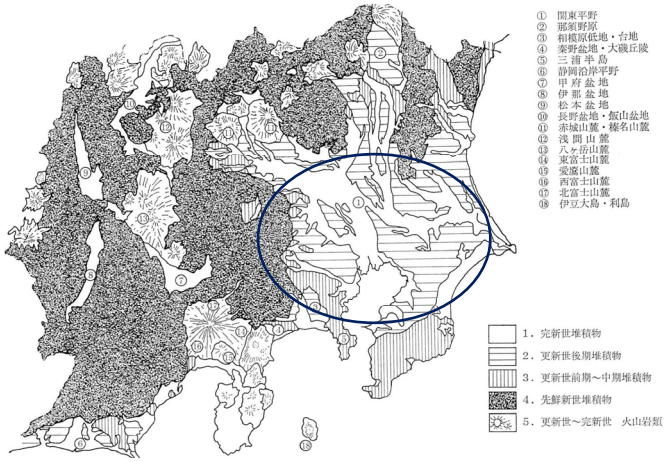
1.関東平野



地形・地質

関東平野は三方を山地に囲まれ，それに接した丘陵，台地，低地からなっています。地質は，下位から先第三紀の基盤岩類，三浦層群，上総層群，成田層群(下総層群，東京層群)，段丘堆積層，ローム層および沖積層に大別されます。

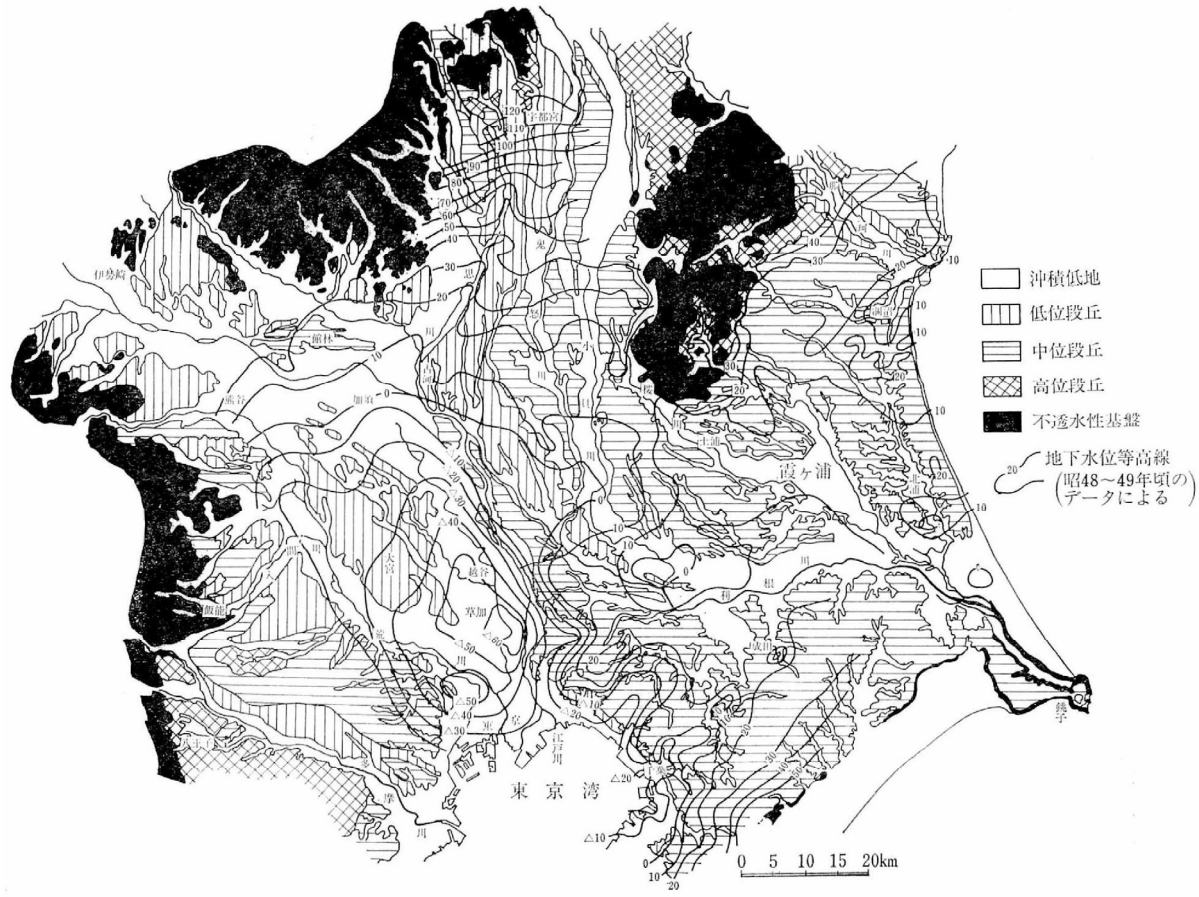
関東平野の地下地質対比表

時代	遠藤(1978) 他 東京付近(地下)	関東農政局(1976) 他 狭山丘陵	所沢西部	所沢台地中～東部	荒川以東	関東平野中～北部	新堀ら(1968) 菊地・貝塚(1972) 南関東	青木・馬場(1980) 筑波	桧井ら(1975) 船橋～市原	関東第四紀研究グループ(1969) 常総台地（地表）	特殊地質図 20 (1976)
完新世	有楽町層 七号地下			上部砂層 下部泥層		沖積層	沖積層		沖積層		
更新世 上部	立川ローム	立川ローム						ローム		立川ローム	
	立川砂礫層										
	武蔵野ローム	武蔵野ローム								武蔵野ローム	
	武蔵野砂礫層		武蔵野砂礫層							常総粘土層	
		下末吉ローム						竜ヶ崎層		下末吉ローム	竜ヶ崎砂層
更新世 中部 東京層群	高砂層			N_1	成田層群	A層	NI	成田層 瀬又・地蔵堂層 成東層 金剛地層	成田層群	木下層 上岩橋層	成田層
更新世 中部 東京層群	江戸川層	多摩ローム 芋窪礫層		N_2		B層	NII			藪層	
更新世 中部 東京層群	舎人層 (城北砂礫)			N_3		C層 ?	NIII			地蔵堂層	
更新世 下部 上総層群	東久留米層	谷ツ粘土層 三ツ木礫層		SA層群			上総層群	上総層群上部	SA層群 船橋D シルト 船橋礫層	上総層群 笠森層	周南層 佐貫層 笠森層
		?								万田野層	長沼層，万田野層
	北多摩層	上総層群							KA層群	長南層 国本層 梅が瀬層	長南層
											市宿層 柿ノ木層 国本層
第三紀											東日笠 梅ヶ瀬層
										下総層群	成田層，上岩橋層，清川層
										下総層群	藪層
										下総層群	地蔵堂層，金剛地層

地下水

主な帯水層は成田層群で，地下水の賦存形態はその層相や構造に制約されます。

また地下水利用は，首都圏における過剰揚水が地盤沈下という公害をもたらしたことによって，社会問題にまで発展しました。



関東平野の水文地質図

出典　日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

http://www.jagh.jp/jp/g/activities/committee/research/gwdb.html（日本地下水学会）